

郵政産業 ユニオン さっぽろ

2012年
11月28日
No.6
発行
郵政産業
ユニオン
札幌支部
発行責任者
川守田英男



札幌中郵の配達区が改善されました。郵政産業ユニオンの申し入れで実現したものです。配達を10時頃までにしてほしいと言われている事業所がありましたが、これまで配達員は配達を終了後一度帰局し、その後他の配達に再度出発。そのため時間をロスし、休憩時間は食事もそこそこにして、すぐ仕事にかからなければならぬ始末。このような状態は、早期配達を希望する事業所を持つ配達区で多数見受けられましたが放置されたままです。郵政産業ユニオンの指摘で、会社は

札中配達区改善

「業務改善プロジェクト」で検討。早期配達希望事業所専任の配達区を作ることによって改善がなされました。「よくやってくれた」、「やっぱり郵政産業ユニオンは違う」との声が職場にひらがっています。

手稲課長代理後任不在 年繁に危機感なし

手稲局郵便課課長代理が8月に転勤して以来空席です。「一人統括」状態が月の半分に

もなっており、業務に影響がでています。郵政産業労働者ユニオンの「早急に対応せよ」との要求に会社は、「人事案件」を経

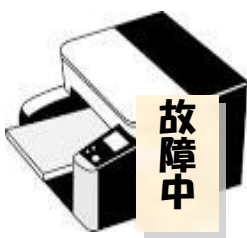


営専決事項」「各部署に非常勤配置して対応」とまともに対処する姿勢がありません。これから年繁を迎えるというこの時期、「危機感が無いのでは」と

指摘に、「危機感が無いわけではない、努力はしているつもり」となんとも頼りない。会社は「必要な部署に、必要な人員を」と言っていますが、欠けているのだから組合の要求は当然です。非常勤での対応は問題の本質がちがいます。後任は総務主任、エ〜。

札幌西局は プリンター故障続き

札幌西局のパソコンプリンターは故障続きです。特殊室のプリンターはインクの定着が悪く、2次元バーコードが読めないことがあり修理を求めました。翌日メンテナンスしました。数日で故障。ゆうゆう窓口のプリンターもしばしば故障中の張り紙が。こうしばしば故障されては、これからの繁忙期が思いやられます。



半年間楽しませてもらったプロ野球シーズンが終わった。パは日ハム、セは読売の優勝。日本シ

ーズは読売の圧勝だった▼シーズン終盤、感動したのは、札幌ドームでの小久保の涙。引退する小久保は、対戦相手日ハム選手の主導で、両軍選手により胴上げされた▼感服したのは、日ハムの花巻東・大谷ドラフト一位指名。昨年の菅野に続き、ドラフトの形骸化を阻止すべく、リスクを承知で敢然と筋を通した▼慨嘆したのは、シリーズでの危険球誤審。読売選手の「だまし」は、サッカーでの反則行為「シュミレーション」、模擬して審判を欺く行為、ただけない。対する日ハムサイドは、「その瞬間で審判が下した判定が正しい」と清々しい▼スポーツはルールを守り、相手を尊重し、正々堂々とたたかうことで観衆を魅了する。これは選手・監督はもとより経営陣・機構等、関係者すべてが肝に銘じなければならぬ。一個人・一球団が良ければそれでいいとの料簡の者は、やがてファンに見放されるだろう。

11月11日、札幌市で『反原発1000000人大占拠』行動に連帯する『今すぐ原発ゼロへ!』11・11札幌アクションが行われました。大通西6丁目の集会では泊原発の廃炉めざす会の副団長さんが「原発は、ひとたび事故が起これば廃炉もすすまない」と挨拶しました。

「反原発1000000人大占拠」行動に連帯する 「今すぐ原発ゼロへ!」11・11札幌アクション



せん。「今すぐ原発ゼロへ」の思いをあらたにしました。その後デモ行進、北電本社前では「泊原発再稼働反対」とひととき大きなシュプレヒコールが起きました。郵政産業札幌支部から、OBも含め約10名が参加しました。

この言葉が、ズンと心に響きました。二度と、原発事故が繰り返されはイケません。

札幌での啄木（終）

二五日。午前、小國氏来訪。函館から来状二通。小樽の知人と謝野らに小樽への転出の旨を書き送っている。来訪一名。夜、雨情を訪ねる。更に小國氏を訪れ、同じく来訪した知人とともに歓談、深夜一時帰宿。二六日。朝から雨、「心粛々」。盛岡などの知人から来状。二七日。午前、退社手続きに北門新報社へ行き、給与を社員の西堀氏に立て替えてもらう。「新報」は当時財政状態が思わしくなく、このことも小樽行きの一因である。帰路大通にあつた雨情の下宿を訪ねる。その後向井氏の室で知人が寄り合い、送別の宴が開かる。したたかに酔った啄木は、雷雨の中、午後四時一〇分汽車で小樽に向かう。あわたたしい札幌の一四日間が終わった。

掲載歌中の「美國」は「琴似」であろうと愚考する。「一握の砂」の句列から、「美國」は札幌・小樽間でなければならぬ。乗客の話中の「コトニ」を酔中の啄木が、「ビクニ」と聞き違えたのであろう。当時琴似は、必要な時だけ旗を掲げて汽車を停車させる、「フラグステーション」であった。「赤き布片」はその「旗」の可能性がある。

石狩の美國といへる停車場の柵に乾してありし 赤き布片きれかな

啄木没後百年を記念して新しく歌碑が建立された。啄木が下宿したといわれる場所から三百M、北7条西7丁目借楽園緑地にそれはある。

